

運営方針について

【1】運営方針とは

運営方針は、各所属における当該年度の施策の選択と集中の方針を明示し、その概要を示すものです。企業活動などで使われる「戦略計画」（経営戦略）の考え方を行政に取り入れており、成果を常に意識して取組の有効性をチェックし、改善や新たな展開につながるPDCAサイクルの徹底を狙いとしています。

戦略計画とは、

- ・ 部門ごとに、自らのミッション（使命・役割）を認識したうえで、
- ・ 現状分析や将来予測などを踏まえ、めざすべき状態の実現に向けて解決すべき課題が何かを明らかにし、
- ・ 課題を解決するための効果的な方策を練り、
- ・ その方策に即した具体的な行動を明らかにする

という計画で、

- ・ 事業の実施によってめざす成果（状態の変化）の目標を測定可能な指標を用いて設定し、定期的に測定することで、達成状況をチェックし、フィードバックすることを前提にしています。

【2】PDCAサイクルとは

PDCAは、Plan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Action（改善）の頭文字。下記のように、PDCAという4つのプロセスからなる活動のサイクルを繰り返し、改善を継続していくための手法が、PDCAサイクルと呼ばれています。

- 1 Plan(計画): 目標を設定し、達成のための具体的な行動計画をたてる
- 2 Do(実行): 計画に沿って行動する
- 3 Check(評価): 成果を測定し、評価する
- 4 Action(改善): 必要に応じて、具体的な行動の修正や変更などの改善処置をとる



上記1～4のPDCAサイクルを左図のように回し続けることで、継続的に施策・事業の改善に取り組み、常に向上を図ることが重要です。サイクルごとに螺旋を描くように向上させるということから「スパイラルアップ」と呼んでいます。

PDCAサイクルでは、Checkが重点だと思われがちですが、最も重要なのはPlanの段階で、達成状況が測定できる目標になっているか、具体的な行動（手段）を落とし込んだ計画になっているかです。

【3】様式について

本様式の役割は、区や局の目標、使命を示した上で、それらを踏まえて、各所属の様々な経営課題や取組のうち、当該年度に何について特に優先して取り組んでいくのかについての所属長の認識、つまり所属長としての「選択と集中の方針」を明らかにすることです。

また、予算編成に先立つ所属の選択と集中の方針を示すものであり、市会の各常任委員会における予算説明の資料として本様式を提出することから、運営方針全体を通してわかりやすく簡潔な記載を心掛けています。

【4】目標と使命の違いについて

目標は、区や局の活動によって「何が、どうなるのか」、区・局の担当する分野においてめざすべき将来像を示し、使命は、そのために区や局が「どのような役割を担うのか」、目標の実現のために区・局の担うべき役割を示します。その意味で、目標と使命は、目的と手段の関係にあります。

一般的な企業では、経営戦略において目標として、自社のありたい姿を設定しますが、行政の場合、通常は、自らの姿より、市民や地域社会がどうなるかが目標になります。

【5】アウトカム指標について

アウトカム指標とは、経営課題の解決に向けた進捗度合を示すために、客観的に測定できるよう数値化した指標のことです。

経営課題の解決のために戦略を構築しますが、全てが計画どおりに進むとは限りません。そのためにも、成果目標（ゴール）にどの程度近づいているのかをチェックする必要があります。その際、客観的にチェックするためには、数値化が必要になり、また、数値化することで、市民の方にとっても、進捗度合をイメージしやすくなります。